

—初代会長「井口 ^{いのくち}末吉^{すえきち}」さんのプロフィール（資料）—

福岡県立筑紫丘高等学校 沿革 年表

[1926年6月28日](#) 福岡県筑紫中学校設置許可

[1927年2月1日](#) 初代校長生田徳太郎着任

[1927年4月7日](#) 福岡県旧制福岡中学校で初めての入学式を挙行（新入生 250）

[1927年4月9日](#) 福岡市南区大字塩原（当時の筑紫郡三宅村大字塩原）の新校舎にて授業開始

[1931年2月11日](#) 旧校歌制定（作詞生田徳太郎、作曲片山颯太郎）

[1932年3月2日](#) 福岡県旧制福岡中学校で第1回卒業証書授与式を挙行

[1933年9月5日](#) プール竣工式挙行

[1936年3月31日（昭和11年）](#) 第2代校長井口末吉着

福岡県高等学校校長退職が昭和23年3月31日と思われる。

福岡大付属大濠中学校・高等学校 建学の精神



井口 末吉校長

初代井口末吉校長を中心に創立当時の教職員
道徳教育を通じて人間性を高める

戦火で焦土と化し、人心の荒廃と思想の混迷が深刻化した昭和23（1948）年。
福岡外事専門学校校長中村治四郎氏を中心として、教育界の重鎮をなす先生方が集まりました。

「今こそ私立学校を興し、日本社会を建て直す青年を育てよう」。

大濠は、そんな熱き思いによって創られました。神社庁の古い建物を借用しての出発だったが、初代校長井口末吉先生は「教育は校舎にらず、教師にあり。道徳教育を根幹として教育を断行する」と宣言し、社会の一員として主体的、自律的に生きる生徒を育成する方針を定めました。

1948(昭和23)年 03月12日	福岡外事専門学校附属中学校として大濠中学校の設立が認可され、初代校長として井口末吉が就任。
1949(昭和24)年 03月25日	福岡外事専門学校が福岡経済専門学校と合併、福岡商科大学となるに及び校名を福岡商科大学附属大濠中学校と改称。
1951(昭和26)年 04月13日	福岡商科大学附属高等学校として大濠高等学校設立の認可を受けた。

財団法人 日本退職公務員連盟二十年史より

マッカーサーに直訴の思い出

井口 末吉

日公連結成せられて春風秋雨ここに 20 年、既往を回顧すれば行路困難、紆余曲折、感慨^{かながいてん}転た尽きないのであるが、紙面に限りがあるので、本県（福岡県）退公連の出発当所の思い出の一端のみを次に略記する。

昭和 22 年 9 月 24 日、ある郡内退職教員の定例会合の席上で、恩給増額運動の議起り、翌日代表の一人、福岡に飛び、教育会ならびに市内有志と会合し連盟結成の件を即決し、10 月 5 日に結成、準備委員会、同 22 日県連結成大会ととんとん拍子に響の声に応ずる如く進行し、11 月 15 日には第 1 回の支部長会議を開催し、会員よりの陳情書を取りまとめ 5 名の上京委員を選出して次の 3 項を決議した。

- (1) 県出身代議士への協力要請
- (2) マッカーサーへの陳情
- (3) 東京都連結成への促進

上京委員は、11 月 21 日上京、まず県出身代議士に会い、次に (3) は何れこの運動は全国的の組織を必要とする。それには、中核的存在たる東京都連盟の結成が喫緊事である。

そこで、藤野委員は一足さきに出発して、都退職校長諸君に、私どもは宇田川教育会事務局長および田島、宮内両氏に面語希望を述べて賛同を得た。

(2) のマッカーサー面接をどうするか、代議士諸公からも種々意見も出たが、米国は日本と違う、遠慮はいらぬ、直接会って砕けよということになり、4 人の委員は 6 冊に整理した陳情書の風呂敷を包を提げて勇氣凛々、佐倉宗五郎気取りで GHQ に乗り込み、玄関子にマッカーサー面接を申し込んだ。玄関子は、目を丸くして驚き、剣もほろろに絶対不可能の宣言を数回繰り返した。いかに所変われば風変わるとは言え、これは盲人蛇に怖じずの挙であったと気づき、

次善の策として担当部課長への取次ぎを強硬に要請した。玄関子を弱り果てて遂に電話連絡の後 GHQ を一階より二階と上り三階の、とある部屋の前まで案内した。その課長は二世であったがわれわれを連れて三階から二階に下り一階の一部屋に案内した。室の主は威風堂々たる米人（多分部等級、日本語ができる。）でわれわれの用件をきき「それは純然たる国内問題だ、諸君の代表たる議会に行け、ここは筋違いだ」とはねつけられた。

議会にはすでに陳情済み、如何に議会が採択してもマッカーサーの OK なくては万事休する。そのための陳情だと言うと暫く考えていたが「フムそうか、それでよいのか」陳情書を二三枚めくって見て「よし受け取って置く」、これでやっと肩の重荷をおろしほっとして急ぎ GHQ 外に飛び出した。後で院内で松原代議士に逢い入金一千円を納め、また

三橋恩給局長（教え子）を文部省の局分室に訪い体を張って奮闘を要望して帰県の途についたが、今から当時を追懐すると全く夢のようなこちがする。

（福岡県退公連会長）

